

政にも属さず、どちらかといえば
心を装っていたものの、内戦前か
たび政治的な行動をとった。共和
が逮捕されるとこれに公然と反対
に対する知識人宣言」に署名、共
する。マドリドでの生活は経済的
あるプエルトリコで彼の詩のアンソ
るのを頼みに、妻とともにアメリカ
ル・アサーニャにスペイン大使館文
かへ渡り、右翼の手に落ちんとす
ちで支援を乞うが、反共産主義運
ルト大統領政権下では何の支持も
キューバでガルシアー・ロルカ追悼
ニューヨークに移りアントニオ・マチャ
ト、リヴァーデル、ブエノスアイ
ノビアが子宮癌を煩い、プエルトリ
る。1956年、ノーベル文学賞受賞
後にセノビアは死去。二年後、77歳

arcía Lorca

ア・ロルカ 〈1898-1936〉

ロス生まれ。十代で音楽を志しバ
の綱だったピアノ教師が物故し、後
の《学生館》でファン・ラモン・ヒメ
ルイス・プニュエルと親しくなる。
を発表。1922年、作曲家マヌエル
ンテ・ホンドのコンクールをアルハン
ての名声を確立したのは、スペイン
マンセの形式を用いた『ジブシー
詩』である。1929年、精神的危機を
、ニューヨークで世界恐慌を目的
の非人間性を肌で知る。翌年キュ
験は後に詩集『ニューヨークの詩
意共和制が誕生すると、大学生
バラッカ』を結成。法務大臣で社
ロス・リーオスの協力を得て政府
ンテスやロペ・デ・ベガなどの古典
政府の教育政策の一端を担う。自
33年）、『イエルマ』（1934年）も大
ならずメキシコやアルゼンチンなど
家としての評判を確固たるものと
国内外に広がり右翼クーデターが
を表明、右翼からは社会主義のス
こうした世情を意識しながら、専横
たちの悲劇を描いた『ベルナルダ
拠点だったマドリドが一触即発
対を押し切って家族が住む故郷グ
人ルイス・ロサレスに庇護を求めた。
ロサレス家の努力も空しくフランコ

ánandez

ス 〈1910-1942〉

れ。父は山羊飼いで、幼ないころ
だった。小中学校では読書に夢中
「この子にはきちんとした学業をさ
問と無縁な父親はきっぱりと拒否。
山羊の番をするときも本を携え、寸
。家庭は貧しく、本は司祭や図書

館で借りた。ウェルギリウスの叙事詩『アエネーイス』や『ドン・キホーテ』、サン・ファン・デ・ラ・クルスやガルシラーソ・デ・ラ・ベガの詩、ガブリエル・ミローの小説など、古典から現代の作品まで貪るように読んだ。二十歳のころ文芸仲間と知り合い、中でもラモン・シヘーと親友になる。1933年、詩集『月をきわめる者』を発表。ゴンゴラ張りの難解な詩は批評家に黙殺され、ガルシアー・ロルカが数少ない理解者の一人だった。1935年、パブロ・ネルーダとピセンテ・アレイクサンドレと親交を深める。アレイクサンドレの詩集『破壊、あるいは愛』が以後の詩作の指針となる。親友シヘーが若くして病没、哀歌を書き、代表作となる詩集『やまざる稲妻』に収める。1936年、ガルシアー・ロルカの計報に接し、妻の父も暗殺されると、共和派の第五連隊に入隊。任務は塹壕掘り。後に文化義勇兵に任命され、新聞やポスター、兵士たちの葉書など、ありとあらゆる場所に詩を書く。1937年、第二回文化擁護国際作家会議に参加し、第五回ソヴェト演劇祭に出席するため文化派遣員としてソ連を旅行。内戦終結後ポルトガルに逃れようとするがロサル・デ・ラ・フロンテラで逮捕、裁判で死刑宣告を受けるが、友人で編集者のホセ・マリーア・デ・コシオの嘆願により懲役三十年に減刑。獄中で詩集『不在の歌とロマンセ集』を執筆。1942年、チフスと結核を患い獄死。

新たな50年に向かう第一歩

フラメンコの魂を追い求め続けているうちに五十年という月日が過ぎ去っていました。

一昨年の舞台『鳥の歌 A Pau Casals』は反骨のチェリスト、パブロ・カザルスに献げた舞台。昨年の『FEDERICO』は永年私が追求めたアンダルシアの大地に根付いた詩人ロルカの内的世界を創造。今年は〈愛と平和三部作〉の最終章作品『戦下の詩人たち』〈愛と死のはざま〉を上演します。

昨年夏、グラナダでフェデリコ・ガルシアー・ロルカ没後70周年記念式典が盛大に催され、主宰者のご厚意と友人でスペインを代表するフラメンコ舞踊家クリスティーナ・オヨスご夫妻の計らいにより参列する事ができました。大勢の招待者の知遇を得ることが出来ましたが、その中の一人が歴史家・伝記作家のイアン・ギブソン氏でした。ギブソン氏は今年、“Cuatro poetas en guerra”を上梓しました。アントニオ・マチャード、ファン・ラモン・ヒメネス、ガルシアー・ロルカ、ミゲル・エルナンデスという四人の詩人がスペイン内戦でいかに共和国政府を支援し、夢破れたかを描いた伝記です。私はかねてより内戦に運命を翻弄されながらも恒久平和を願い闘い抜いた詩人たちへのオマージュを捧げる事で、人々の心に平和な世界の到来を心より願い〈愛と平和〉を訴え続けたいとの想いが深かったので、この本の出版は大きな衝撃と共に創造への希求を与えてくれました。

ギブソン氏の著書にインスピレーションを得た私は、早速スペイン屈指の振付家ハビエル・ラトロー氏に作品の振付を依頼しました。作曲・音楽には今脚光を浴び続けるギターの名手チクエロ氏、舞台美術にはスペイン在住でフラメンコと深く関わっている堀越千秋氏を迎えて、全く新しい舞台空間創造に挑戦することにいたしました。作品創造の〈夢〉に向かってゲストのスペイン人出演者たち共々舞踊団一同各々の希望が大きく膨らんでいます。

新しい予感に満ちた〈愛と平和三部作〉の終章を成功させる為、出演者・スタッフ一同大きな力を働かせ、舞台創造の限らない高みを求めたいと願っています。

小島章司



ハビエル・ラトロー
(振付)

1963年バレンシア生まれ。

現在最も人気が高いスペイン舞踊振付家。代表作は踊り手としてシリアブ舞踊団『運命の力』、振付家としてはスペイン国立舞踊団『ルス・デ・アルマ』『ポエタ』、アンダルシア舞踊団『コーサス・デ・バジョス』、ラ・フーラ・デルス・ハウス『オンブラ』、エバ・ジェルバブエナ『5ムヘーレス5』、グラナダ国際舞踊祭とセビージャのピエナル、テアトロ・デ・サンブラの共同制作作品『リニコネーテ・イ・コルタディージョ』などがある。



チクエロ
(作曲・音楽)

1968年バルセロナ生まれ。

人気、実力ともに当代随一のギタリスト。カタルーニャを代表するカンテの四巨頭、ドッケンテ、マイテ・マルティン、ヒネーサ・オルテガ、ミゲル・ポベータのギタリストとして活躍中。オーソン・ウェルズの未完映画『ドン・キホーテ』に曲を提供するなど活動範囲は幅広い。1992年から小島章司フラメンコ舞踊団の音楽監督を務める。



堀越千秋
(美術)

1948年東京生まれ。

東京芸術大学大学院(油絵)を修了後、1976年スペイン政府給費留学生として渡西。以後スペイン在住。フラメンコの唄(カンテ)を好み、名門アグター一族と親交を結び、カンテを覚える。(ロンダ市カンテ・コンクール名誉賞受賞、フジロックフェスティバル出演。)世界各地で個展、壁画、彫刻など幅広い制作。(『武満徹全集』=全五巻・小学館=の装画は経済産業大臣章受章、ライブテレビ「世界で一番美しい本」展日本代表。)全日空機内誌「翼の王国」表紙連載中。近年は埼玉県神泉村山中で陶作をする。その折、東京で小島章司の踊りに接し、瞠目する。